

# ミステリ読書案内

2022. 12. 19 発行元

第428号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## 赤川次郎の代表作

赤川次郎の代表作を考えることは難しくない。デビュー直後の初期の作品の中から選べばよいからだ。1970年代後半の頃は新鮮な驚きで赤川次郎の新作が出るのを待っていたものだ。思い出そのものといった感じ。

### 今も読み続けている

私は今も読み続けている。これまで何度か「もう読むのは止めよう」と思って数年間手を出さないでいる時もあるのだが、『三毛猫ホームズ』だけは読もうかなどと思い直して、ついつい再開してしまうことになる。今は400冊を越えた。

気軽に読み始められることが一番で、旅行の途中とか、病院の待合室でとか手元にあるとちょうどピッタリ。『吸血鬼はお年ごろ』シリーズや『怪異名所巡り』シリーズなど、1時間もあれば一冊読み終えてしまうので、後に響くこともない。

それなりに楽しめる。

初期の代表作は、よく本のカバーの作者紹介に載っている『幽霊列車』『三毛猫ホームズの推理』『セーラー服と機関銃』で決まり。この三作で赤川次郎という作家の本質を理解することができる。

他に『三姉妹探偵団』シリーズや『四文字熟語(大貫警部)』シリーズや『夫は泥棒妻は刑事』シリーズなど思い出深い本もあるのだけれども、それらは次の機会に。初期の頃の本はたくさん私の手元に残っている。世の中、あまりに出回り過ぎて、古書店も引き取りを拒否する時代があったのだ。

### NO.3「セーラー服と機関銃」

1978年主婦と生活社の21世紀ノベルの一冊として出版されたもの。1981年に薬師丸ひろ子主演で角川映画となって有名になった。私は主婦と生活社版で持っている。古書市場では2000円くらいの値段で取引されているようだ。

女子高校生の星泉が主人公。父親とその愛人が謎の死をとげる。母親はかなり前に亡くなっていた。一人になった泉は、その気もないのに遠い血縁関係で弱小貧乏の暴力団・目高組の四代目を継ぐことになり、少人数で敵対するヤクザに立ち向かっていくことになる。最後は機関銃を抱えての大立ち回りになっていくストーリー。先の見えない展開の面白さ。映画が大評判になり、その後続編も出版されている。

### NO.1「幽霊列車」

1978年文藝春秋。赤川次郎のデビュー作に当たる本だが、私の手元にあるのは残念ながら初版ではない。当時、私は海外ミステリに力点を置いていたので、少し出遅れたのだ。世の中で話題になり始めて買った時にはもう第三刷になっていた。それだけ勢いが凄かったと言える。

今読み直してみると最近作とはかなり印象が異なる。最近作では永井夕子も宇野野一警部もすっかりこなれた描写になってしまっているけれども、本書では書き始めの緊張感が漂っている。会話中心の展開は間違いなくその通り。でも、地の文も丁寧に書き込まれている。第一話『幽霊列車』の冒頭。岩湯谷駅の駅長の証言。「あの朝の一番列車にはあの八人の他にお客はありませんでした」。でも隣の大湯谷の駅に着いた列車には誰も乗っていなかったのだ。という不思議な謎の提示。地元署から依頼を受けた宇野は休暇の形で事件に取り組むことに。そこで出会ったのが事件に興味を持つ学生の子。ここから全てが始まっていく。本書は、謎の設定が素晴らしく、サプライズ・エンディングもスパッと決まっている。本格ミステリとしてのレベルも高い。ユーモアミステリは気持ちを楽しんで読めるのも良い。『オール讀物推理小説新人賞』も当然の結果。

### No.2「三毛猫ホームズの推理」

1978年カッパノベルズ。『三毛猫ホームズシリーズ』の第一作になる。私が思うには、作者が一番エネルギーを注いでいるシリーズであり、年月が経っても内容が安定していると感じる。今になってみれば、赤川次郎の代表作はこちらのような気がする。

このシリーズの魅力は三毛猫ホームズと刑事・片山義太郎の交流にある。ホームズは言葉はしゃべれないものの、物事を理解し、行動で片山を解決に引っ張っていく。ホームズが名探偵で、片山が聞き取り役である。本書の出だしでは女子大学生殺しを捜査する流れになり、片山が羽衣女子大学を訪ねるところから始まる。文学部長の森崎智雄と面会するとそこへ三毛猫ホームズが登場してくる。第二作以降は片山の家族一員の形になるのだが、本書ではまだ森崎部長と暮らしている。片山が血を見るのが苦手、女性恐怖症であることは最初の設定から定まっている。やがて、連続殺人事件に発展し、密室も絡んでくる。片山の妹・晴美や捜査一課長・三田村警視など常連メンバーも登場してくる。「本格もの」としての謎解きの伏線も張られていて、読みやすい文章であり、展開がとてもスムーズ。読者を引き付ける名作としての要素が揃っている作品だ。